

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：環境省自然環境計画課

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	<p>・各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためにモデル事業を、一カ所以上で実施します。</p>	<p>陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩類への対策を推進するため、与論島におけるモデル事業として地域の体制構築及び陸域栄養塩対策の実証事業を行った。より具体的には、①関係者との打合せによる計画作成、②陸域の栄養塩管理実証事業等の実施（農家3軒程度を対象）、③海域の状況把握（特定の礁池海域を対象に現地調査・シミュレーション等）、④サンゴ礁生態系のモニタリング調査を実施した。2月21日には本年度の取組報告会を実施予定。</p>
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<p>・各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためにモデル事業を、一カ所以上で実施します。</p>	<p>サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムを推進するため、石垣島の米原海岸においてモデル事業を実施することとし、サンゴ礁利用に関するルールづくりを進めた。より具体的には、①関係者との打合せ、②住民との意見交換会開催、③国内外におけるサンゴ礁生態系保全の適正利用ルールの収集、④協議会の設置に向けた準備会の開催をこれまで実施し、3月1日には⑤協議会の開催を予定している。</p>
2		

機関名：環境省自然環境計画課（その2）

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<p>・各地域で対策を推進する際の参考事例となるよう、地域が主体となって取り組むサンゴ礁生態系保全の推進体制を構築するためにモデル事業を、一カ所以上で実施します。</p>	<p>「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」を推進するため、喜界島におけるモデル事業として、地域住民が参画したサンゴ礁文化の掘り起こしを開始した。より具体的には、①現地調査、②ヒアリング調査、③地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながり構築に関する研修会の開催をこれまで実施した。</p>
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		<p>平成30年は国際サンゴ礁年2018として定められたことを受けて、環境省では、平成29年11月30日に国際サンゴ礁年2018のキックオフミーティングを関係企業・団体等と行い、国際サンゴ礁年2018活動登録制度、Facebookを通じた情報共有、国際サンゴ礁年2018オフィシャルサポーター制度を設けた。平成30年1月28日には国際サンゴ礁年2018オープニングシンポジウムを東京で開催し、中川環境大臣がさかなクンを国際サンゴ礁年2018アンバサダーに任命するとともに、企業等13団体を国際サンゴ礁年オフィシャルサポーターに任命した。このほか、サンゴ礁生態系に係る気候変動への脆弱性評価・適応策検討のモデル的取組等を、環境省請負業務等を通じて展開している。</p>
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：環境省那覇自然環境事務所

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1		
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	西表石垣国立公園における子ども自然ふれあい事業 西表石垣国立公園の小学校において、子どもたちのサンゴ学習等の自然とのふれあい活動や環境プログラムを実施して、豊かな自然環境への理解とサンゴ礁などの保全に対する意識を高め、自然環境の保全に積極的に取り組む将来世代の育成を支援します。	地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりを構築するため、石垣市内の小学校と連携し、サンゴ礁をフィールドとした自然観察、生き物調査、体験学習等の自然ふれあい活動を実施しているところ。 平成29年度は石垣市新川小学校5年生80名を対象に5回実施した。
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	石西礁湖自然再生協議会の開催	石西礁湖自然再生全体構想の短期目標（10年）の達成年にあたり、構成員に10年間の取組の自己評価を依頼し、平成30年1月24日・25日に取組内容や今後に向けた課題について意見交換を行ったところ。意見交換の結果を踏まえ、10年間の評価・検証を平成30年2月18日の自然再生協議会でとりまとめる予定。10年間の評価・検証結果を受けて、次年度にかけて今後の取組の方針等を引き続き議論をしていく。
2	石垣島民向けシンポジウムの開催	2016年の大規模白化を受けて、石西礁湖の現状やサンゴ礁生態系がもたらす恵みについて島民に知っていただき、豊かな恵みを将来に受け継いでいけるよう、サンゴ礁保全に取り組むきっかけとなることを目的に、シンポジウム『サンゴの海がSOS!? 「教えてさかなクン! ギョギョッとサンゴのひみつ」』を開催した。さかなクンと琉球大学・土屋誠名誉教授によるサンゴの話の他、タッチプール・魚やサンゴの水槽展示等を行い、1500人の来場者がサンゴ礁保全の理解を深めた。

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：国土交通省下水道部

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1		
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	合流式下水道の改善 計画的・効率的な合流式下水道の改善対策の実施を推進します。	平成28年末時点での合流式下水道の改善率は76.2%となり、前年度から2.5ポイント上昇した。 合流式下水道改善事業の完了目標が平成35年度の都市及び流域下水道（22都市、1流域）について、目標年度の達成に向けて、計画に位置付けられた、スクリーンや雨水貯留施設等の整備を支援した。引き続き、事業完了に向けて、支援を行う予定。
2	下水道によるし尿、生活排水対策など各種污水処を実施 人口減少等の社会情勢の変化を踏まえた効率的な污水処理施設の整備を進めるため、地域の特性を考慮し下水道、農業集落排水施設、浄化槽等の適切な役割分担の下、必要な下水道整備を推進します。	平成28年度末時点での下水道処理人口普及率は78.3%となり、前年度から0.5ポイント上昇した。 引き続き、人口減少等の社会情勢の変化を踏まえた下水道計画の見直しを推進したうえで、各污水処理施設の連携を一層強化するとともに、地域の実情に応じた低コスト技術の導入や官民連携手法を活用した下水道整備手法の採用を促進し、効率的な下水道整備を推進する。
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：農林水産省

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	<p>【水質保全対策事業】</p> <p>○水質保全施設整備 水資源の総合的な保全に資することを目的とし、農業用排水施設から公共用水域へ排出される排水の水質浄化を図り、農村地域の環境保全及び農業利水に適切に対処するとともに、農地（休耕田）や水生生物の有する自然浄化機能の活用、接触酸化水路、曝気施設等の浄化水路等の整備を実施します。</p> <p>○耕土流出防止施設整備 侵食を受けやすい特殊土壌が広範に分布している沖縄県及び奄美群島地域において、農用地及びその周辺の土壌の流出を防止し、農村地域の環境保全に資することを目的として、承水路や沈砂池等の整備、勾配抑制、法面保護、土層改良、暗渠排水、既存施設の軽微な変更等を実施します。</p>	<p>○水質保全施設整備 海域の環境保全のために、農業用排水施設内の水質浄化を図る必要がある際には、自然浄化機能の活用、接触酸化水路、曝気施設等の浄化水路等の整備を図る。</p> <p>○耕土流出防止施設整備 農用地及びその周辺の土壌の流出を防止するため、農地等の発生源対策として承水路、沈砂池等の整備や、勾配抑制、グリーンベルト等の植生保護を、平成29年度は沖縄県で19地区、鹿児島県で3地区実施している。 今後とも、農用地及びその周辺の土壌の流出低減に向け、関係自治体や営農者と連携して営農での取組とともに本事業を推進していく。</p>
2	<p>【多面的機能支払交付金（うち資源向上支払）】</p> <p>地域住民を含む組織が取り組む水路、農道等の軽微な補修や植栽による景観形成など農村環境の良好な保全を始めとする地域資源の質的湖上を図る共同活動、施設の長寿命化のための活動を支援します。このうち耕土流出対策としては、グリーンベルトの設置による耕土流出防止の取組等を支援します。</p>	<p>平成28年度は、耕土流出防止対策として、グリーンベルトの設置や沈砂池の適正管理等の取組を、鹿児島県の4町31組織及び沖縄県の18市町村28組織において実施した。 今後とも、本交付金を活用した耕土流出防止対策の取組の推進等により、沿岸海域の良好な環境の保全に向けた取組を支援してまいりたい。</p>
3	<p>【農業集落排水事業】</p> <p>生活排水等による水産動植物の生育環境の悪化に対しては、集落排水施設などの整備を通じた陸上からの水質負荷低減に取り組みます。</p>	<p>陸域に由来する栄養塩等への対策を推進するため、農業集落排水事業の実施により、農業集落排水施設の未整備地域の整備を促進するとともに、老朽化施設の更新整備や高度処理の導入の促進について、関係機関の連携のもと推進しているところ。 農業集落排水施設は、平成28年度までに全国で約5,000施設が供用されており、平成28年度は全国約230箇所を整備を実施した。 陸上からの水質負荷低減に向け、今後とも農業集落排水施設の普及、更新整備及び高度処理の導入について、関係自治体と連携して推進する。</p>

機関名：農林水産省（その2）

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題2「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1		
重点課題3「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<p>【地域主体のサンゴ礁保全対策の支援】</p> <p>○水産多面的機能発揮対策事業</p> <p>漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援します。</p>	<p>水産業・漁村の活性化を図ることを目的に、水産業・漁村が持つ多面的機能の発揮に資する地域の活動支援の一環として、サンゴ礁の保全活動を支援している。</p> <p>具体的には、平成29年度では高知県2件、鹿児島県2件・沖縄県8件等において、サンゴの移植、食害生物の除去、浮遊・堆積物の除去等の活動への支援を実施している。</p>
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：沖縄県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	サンゴ礁保全に貢献するツーリズムの推進 「サンゴ礁保全のための観光レジャープログラム」を通じて、観光・レジャー産業を中心に、地域住民を含めた多様な主体が積極的にサンゴ礁保全と関わりを持つための普及啓発に向けた取組を推進します。	自然保護課のホームページで「サンゴ礁保全のための観光レジャープログラム」を掲載し、様々な機会を通じて同プログラムの普及啓発に取り組んでおり、今後も継続して普及啓発に取り組む。
2	環境保全型自然体験活動の推進 保全利用協定（環境保全型自然体験活動を行う場所の保全を目的として、環境保全型自然体験活動に係る事業者が策定・締結するルール）の締結を推進します。	沖縄県において環境保全型自然体験活動に係る案内及び助言を行として行う者が、環境保全型自然体験活動を行う場所の保全を目的として策定・締結するルールのことを保全利用協定といい、その内容が適切なものであれば、沖縄県知事がこれを適当なものとして認定する。平成30年1月末現在で7地域が認定を受けており、そのうち協定区域が海域である者は2地域である（石垣市白保、宜野湾市謝名瀬）。 今後も、地域の資源を保全・利用するためのルールである保全利用協定制度の普及に取り組む。
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	サンゴ礁保全活動支援事業 サンゴ礁の現況を把握するモニタリング、県民に対するサンゴ礁保全活動の普及啓発、サンゴ食害生物除去などの海域対策を実施する団体を支援します。	沖縄県内においてサンゴ礁保全活動を行う民間団体等に対して、その活動を支援するため、補助金を交付しており、平成30年1月末現在で78団体（うち平成29年度は2団体）を支援した。 今後も、民間団体等が行うサンゴ礁保全活動の支援に取り組む。
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：鹿児島県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	<p>開発現場等からの赤土流出防止対策（関係各課）</p> <p>赤土等流出防止対策について、「奄美地域赤土等流出防止対策協議会」等を設置し、関係市町村や団体等とともに連携を取りながら対策を進めている。</p> <p>なお、今年度より啓発活動の一環として、事業者団体や個人を対象に優良事例表彰が新設された。</p>	<p>(1) 奄美地域赤土等流出防止対策協議会の開催 奄美地域の関係機関（国、県、市町村、関係団体）が一体となって赤土等流出防止について協議し、必要な対策を積極的に推進するため、奄美地域赤土等流出防止対策協議会を運営する。</p> <p>(2) 広報啓発 ①赤土等流出防止対策の文書依頼 ②地元新聞社への広告掲載 ③啓発グッズの作成 ④ラジオCMによる啓発 ⑤普及だよりによる管内市町村への赤土等流出防止対策推進啓発 ⑥梅雨時期の広報依頼</p>
2	<p>汚水処理人口普及率の向上（都市計画課）</p> <p>鹿児島県では、事業主体である市町村と連携しながら、地域の実情に応じた効率的かつ適正な生活排水処理施設の整備を進めている。</p>	<p>鹿児島県は、地理的な条件として人口散在地域が多いことなどから、生活排水処理施設の整備状況は地域差が大きい。地域の特性を踏まえ、下水道、農業・漁業集落排水施設、浄化槽など生活排水処理施設の整備を効率的・計画的に進めている。なお、和泊町、知名町においては、全国の汚水処理人口普及率90.4%を大きく上回っている。（鹿児島県の汚水処理人口普及率(H28末)：79.0%）</p>
重点課題2「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<p>サンゴ礁調査研究基盤整備支援事業（自然保護課）</p> <p>世界でも希少なサンゴ礁研究の適地である喜界島におけるサンゴ礁の調査研究を支援するため、研究施設・設備等の整備の支援を行っている。この支援により、研究の促進や奄美群島のサンゴ礁の魅力発信、研究者や観光客など来訪者の増加による地域の活性化などが期待される。</p>	<p>平成29年度は喜界島サンゴ礁科学研究所のサンゴ飼育施設整備にかかる費用の助成を行った。この施設は、研究及び一般公開施設として利用されることから、観光や環境学習などの推進が期待される。</p>
2	<p>喜界島まるごとサンゴ礁ミュージアム事業（共生・協働推進課）</p> <p>平成29年度NPO共生・協働・かごしま推進事業を活用し、世界有数のサンゴ礁地形を有する喜界島において「地球環境とサンゴ礁」をテーマとした島を丸ごと使った地域住民参加型ミュージアムを創設するもの。</p>	<p>(1) 資料収集調査および展示 地域住民および研究者によって撮影された化石サンゴ礁の地形や生物化石の写真とその解説及び歴史的・文化的側面から見た喜界島の人々とサンゴの関わりについて情報共有できる「みんなで作る喜界島サンゴマップ」を作成する。</p> <p>(2) 喜界島サンゴサイエンスカフェの実施 喜界島のサンゴ研究に取り組む研究者を講師として、地域住民向けの講演会およびそれに関連したフィールドツアーを実施する。</p> <p>【実施団体】 喜界島サンゴ礁科学研究所および地域住民</p>

機関名：鹿児島県（その2）

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	水産多面的機能発揮対策事業（水産振興課） 漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資するサンゴ礁の保全など地域の活動を支援する。	枕崎市や指宿市などにおいて、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、多様な生物の生息・生活の場となっているサンゴ礁を保全するため、オニヒトデの駆除を行い、藻場の保全を行っている。
2	サンゴ礁保全対策事業（自然保護課，奄美群島内12市町村） サンゴ礁の現況を把握するモニタリング，県民に対するサンゴ礁保全活動の普及啓発，サンゴ食害生物除去などの対策を実施する団体を支援する。（奄美群島成長戦略推進交付金事業）	奄美群島では，全市町村で構成する「奄美群島サンゴ礁保全対策協議会」を設立し，平成16年度から対象海域を奄美群島全域に拡大し，重点海域においてオニヒトデの駆除を行うとともに，平成17年度からはサンゴの生育状況等のモニタリング調査を継続している。  (活動内容) モニタリング調査，モニタリング講習会，オニヒトデ駆除，ホームページの管理運営，シンポジウムの開催など
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：熊本県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1		
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1		
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		<p>熊本県では現在、サンゴ礁に対する取り組みや調査は行っていないが、他地域ではサンゴの減少や白化等が確認されていることから、本県でも絶滅のおそれ等がないかを、関係者との密な情報共有を図りながら、確認していくことが必要であると考えている。</p> <p>また、県内でサンゴ群集が見られる天草地域では、ダイビング等一部観光利用もされていることから、他県の状況を参考に保全・安全との両立を考えていく必要もある。</p> <p>今後も、県内をはじめ他県や国の動向に注意し、サンゴ礁生態系保全行動計画に沿って取組を進められるよう、情報共有及び連携を図りたい。</p>
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：宮崎県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<p><b>エコツーリズム推進協議会の取組</b>                      日南海岸に接する串間市では、国の交付金を活用して「串間エコツーリズム推進協議会」を設立し、市内の豊富な自然観光資源を保全しながら活用し、持続可能な形で後生に伝えていく取組を行っている。</p>	<p>串間エコツーリズム推進全体構想において、「都井岬沖の九州最大級のテーブルサンゴ群集」や「築島のサンゴ群集」がエコツーリズムの対象となる自然観光資源に定められており、同構想の中で定められたエコツーリズムのルールに則り、自然環境の保護に留意しながら、観光資源として活用している。                      また、地域住民参加型のエコツアーの開発や、学識者と連携した自然資源の継続的なモニタリング調査などを実施し、サンゴ礁生態系における持続可能なエコツーリズムの推進を図っている。</p>
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<p><b>つながりの構築に向けた取組①</b>                      環境省の生物多様性保全推進交付金で支援をいただき、県や関係市、ダイビング協会らで組織した日南海岸サンゴ群集保全協議会が、県民へのサンゴ保全と生物多様性を広く周知するためのイベント等を実施します。</p>	<p>日南海岸のサンゴの存在やサンゴ生態系及び生物多様性の重要性を広く周知するためには、地元の子供たちへの環境教育学習の実施が必要と考えている。                      今年度は、地元の少年自然の家と協力し、夏休みに浅瀬でのスノーケリングによるサンゴの観察会を実施するとともに、宮崎大学によるサンゴのおはなし（講義）を行い、身近にサンゴの生息する本県の海洋環境のすばらしさや、サンゴを保護することへの重要性の教育を実施した。</p>
2	<p><b>つながりの構築に向けた取組②</b>                      上記1の日南海岸サンゴ群集保全協議会は、行政機関や大学関係者の他に、観光と漁業の関係者が一緒に入っている協議会であり、日南海岸地域の関係者がサンゴについて協議し意思疎通を図ることができる良い協議の場となっている。</p>	<p>日南海岸の美しいサンゴや豊かな生態系を維持していくためには、地元の人々がサンゴ群集を漁業や観光の重要な資源であることを認識した上で、それらを活かした観光事業や環境教育などの各種取組を推進していくことが重要であると考えている。そのために当協議会内で各者の協議を継続して行い、当該支援事業終了後も継続して協議の場が運営できる環境づくりを行うことが重要であり、今後の課題であると考えている。</p>
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：高知県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宗田節をつくるための森づくり（サンゴと森の救援隊）</li> <li>・森林整備・間伐（林野庁四万十森林管理署、高知県森づくり推進課、土佐清水市農林水産課）</li> <li>・土砂浚渫（高知県幡多土木事務所）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者と林業者が荒廃した山林にウバメガシを植樹し有効に活用する森づくりの勉強会を実施する。</li> <li>・竜串地域上流域で災害に強い森づくりを進めるため、それぞれの団体が森林整備や間伐作業を行う。</li> <li>・河川からの土砂流出防止のための土砂の浚渫工事を実施する。</li> </ul>
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1		
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンゴの産卵観察会（竜串観光振興会、黒潮生物研究所、足摺海洋館）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般のダイバーと竜串湾内におけるサンゴに関するレクチャー及びサンゴの産卵を観察し、保全活動の啓発につなげています。（8年目）</li> </ul>
2	<p>【竜串の自然再生につながる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竜串スポットチェック勉強会（環境省、黒潮生物研究所）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民への普及啓発の一環として、市民参加型のサンゴモニタリングイベントを実施しています。</li> </ul>
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	オニヒトデの駆除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺海域では、最近10年間、食害生物であるオニヒトデが大発生し、オニヒトデ駆除対策を実施できていない箇所では、サンゴが消失してしまっている。現在、サンゴが保全できているエリアは限られており、今後それらのエリアにオニヒトデが集中しつつあることが予想されることから、そうした海域において、環境省のMW事業や、水産庁の水産多面的機能発揮対策事業によるオニヒトデの駆除が実施されている。</li> <li>特に、竜串湾内においては、平成21年度以降減少傾向にあったオニヒトデ駆除数が、平成27年度から増加に転じており、平成29年度はさらに駆除数が増加した。駆除数の特に多いエリアでは、サンゴの消失が確認されているとともに、核心部である海域公園地区での駆除数も増加してきており、オニヒトデの食害を抑えられていない状況である。</li> </ul>
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：愛媛県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
	宇和海海域公園サンゴ保護対策の支援	<p>本県では、足摺宇和海国立公園内の宇和海海域公園において、サンゴ類に被害を与えるシロレイシガイダマシ類の発生が確認され、その食害が問題となっており、駆除を継続実施しなければ被害が拡大するおそれがあることから、宇和海海中資源保護対策協議会が実施するオニヒトデやシロレイシガイダマシ類の駆除やモニタリングに要する経費を補助している。（県事業として平成3年度から継続）</p> <p>加えて、足摺宇和海国立公園及び周辺海域において、より効果的な保全活動や持続可能な利用促進に資するため、足摺宇和海保全連絡協議会（事務局：環境省土佐清水自然保護官事務所及び公益財団法人黒潮生物研究所）に参画し、最も保全上の脅威であったオニヒトデ等のサンゴ食害生物の駆除事業の進捗状況やサンゴの被度の現況等について関係者間で情報を共有している。</p> <p>なお、協議会では、県が補助する宇和海海中資源保護対策事業・環境省のマリンワーカー事業・水産庁の水産多面的機能発揮対策事業の限られた予算を効果的に充当できるよう、前年度迄の駆除実績等を踏まえた傾向を分析し、駆除エリアを分担するなど、関係者間の連携を強化することで、駆除やモニタリングを効率的に実施している。さらに、食害生物の駆除事業以外の海域保全上の課題（モニタリング精度の向上や定量的評価の算定手法等）、モニタリング方法の確立、教育利用等に関する検討も進めている。また、一部海域においては、オニヒトデの駆除数の低下が見られないことから、駆除作業の強化策や財源確保が課題となっている。</p>
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：徳島県 竹ヶ島自然再生協議会

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	サンゴ群落保全に貢献するツーリズムの推進。「海洋自然博物館 マリンジャム」を通して、観光とレジャー施設として、地域住民だけでなく、観光客にも主体的に行ってもらう体制を構築する。	左記ツーリズムを推進させるため、海中観光船の運行、シーカヤック、シュノーケリングを行っている。また、夏場に行われるサンゴの産卵を通し、サンゴ幼生の展示や、産卵シーン映像の作成を行っている。さらに、昨年度は博物館内に小型の水族館施設を作り、サンゴ群落周辺の生態系の展示も取り入れ始めた。来年度はサンゴの図鑑づくりや、移植の拡大を通して、町民や観光客を対象にしたエコツーリズムの取り入れを図る予定である。
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1	普及啓発事業 地域社会におけるシンポジウムの主催と、自然再生協議会、竹ヶ島魅力化事業の設置	平成17年より設置された自然再生協議会で、町、漁協や学識者などとの調整を行っている。また、平成28年度より、地域おこし協力隊による竹ヶ島魅力化事業を作成。町、漁協、学識者の間に入り、活動中。また、シンポジウムなどの開催も行っている。今後は、町民向けなどにボランティアなどを募り、体験型活動の取り入れも検討している。
2	人材育成事業 学識者におけるサンゴ学習教育と、サンゴの移植活動	室戸阿南海岸国定公園内に存在する当地域では、平成16年より地元小学生により左記活動を実施している。しかし、サンゴの移植活動に至っては、町内小学校1校のみ実施となっているため、今後、小学校だけでなく、中学校、高等学校までの拡大を図ることを予定としている。
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	サンゴ移植活動の拡大	2018年から取り組みを拡大していくため、現在は移植地点の模索、また、拡大のための広報活動を実施中。学習活動などにも従事していく予定である。
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：和歌山県

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1	<p>汚水処理人口普及率の向上 市町村に対する補助等（下水道水洗化促進補助、下水道事業促進整備交付金、浄化槽設置整備事業）を実施し、下水道や浄化槽等の整備を促進します。</p>	<p>汚水処理人口普及率の向上のため、下水道水洗化促進補助、下水道事業促進整備交付金、浄化槽設置整備事業による市町村に対する補助等を実施し、下水道や浄化槽等の整備を促進しているところ。 今後も継続して市町村に対する補助等を実施し、汚水処理人口普及率の向上を行う。</p>
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1	<p>普及啓発事業 吉野熊野国立公園の串本海域公園地区に指定され、ラムサール条約湿地にも登録された串本沿岸海域のサンゴ群集が存在する生態系について、スノーケリング体験を通して学び、自然環境保全への関心と理解を深めるための取組を実施します。</p>	<p>日本で最初に国立公園の海中公園（現在の海域公園）に指定された串本沿岸海域の生態系を普及するため、近畿地方環境事務所熊野自然保護官事務所との共催で、スノーケリング体験による学習会（串本海中観察会）を2017年まで毎年2回（2016年は悪天により中止）行ってきた。 2006年から10年以上にわたり串本海中観察会を実施してきたが、民間のスノーケリングやダイビングサービスが串本沿岸海域で普及し、また、それら民間事業者らによるサンゴ食害生物駆除活動が立ち上がるなど、概ね目的を達成したため、2017年を最後に串本海中観察会の終了を決定した。</p>
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1		
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1		
2		

サンゴ礁生態系保全行動計画2016-2020 取組状況報告様式

機関名：東京都

No.	具体的取組	実施状況・今後の課題
重点課題1 「陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進」における取組		
1		
2		
重点課題2 「サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進」における取組		
1		
2		
重点課題3 「地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築」における取組		
1		
2		
その他（※3重点課題に該当しないがサンゴ礁保全行動計画2016-2020の趣旨を踏まえ、サンゴ礁生態系保全に対応する取組を予定している場合又は行った場合に記載する。）		
1	小笠原国立公園聳島列島・父島列島植生回復事業	小笠原諸島振興開発事業補助金を活用し、ノヤギの食害により裸地化した箇所から海域に流出する赤土を抑えるため、ノヤギを完全に排除した媒島で、土留め設置等の土壌侵食防止対策を継続して実施している。また、ノヤギがまだ唯一生息している父島でノヤギの排除を継続して実施し、植生回復に取り組んでいる。（東京都）
2		